

SPIRITED—TALE

れいん rein

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

*昔々、地球には一つの神社がありました。

*そこでは、とある家族の娘がいなくなるという事件が起っていました。

*その次の日から、その神社では、人が：特に子供がいなくなり始めました。

*周りの人たちはそれを「神隠し」と呼び始めました。

*そして、長い時がたち…

*SHRINETALE, 20××年。

*そこでは、年に一度の大きなお祭りが一週間、開催されていました。

*そこに、その神社はあったのです。

*そこで、一人の骨が被害に会いました…。

*S
P
I
R
I
T
E
D
|
T
A
L
E

目次

I SPIRITED.

0 0 3	0 0 2	0 0 1	
20	12	1	

1 SPIRITED.

001

*20××年，

*16時52分

*Anti-voidにて。

Error「すー…すー…」

Ink「Errorrrrrrrror
!!!」*ドゴツ
!!!

Error「痛つてえ!?つてInk!？」

Ink「Error!今日は何の日でしょうか!」

Error 「うp主の命日。」

れいん 「うへ!？」

!」
Ink 「いやかわいそうだよ!?!メタいメタい!うp主出てきちやダメ!それに違う

Error 「じゃあなんだ？」

Ink 「年に一度のお祭りだよ!ずっと楽しみにしてたんだ!」

Error (こいつ精神子供かよ…)

Ink 「今失礼なこと思ったでしょ?」

Error 「いやなんにも。」

Error (ま、俺が行くことにはならないだろうけど…)

Ink 「まったく…あ！もちろん君にも来てもらうよ？」

Error 「え」

? 速攻のフラグ回収ーーーー!!

Ink 「ささ！この浴衣来て！」

Error 「なんでだよ！」

Ink 「せっかくのお祭りでしょ！これ着なきや！」

Error 「お祭りには必ず浴衣を着なきやいけないのか!？」

Ink「そうだよ！（Error「そんな規則ねえよ！」うるさいなあ！早く着てよ！」）

Error「はあ…：しょうがねえ、着てくる。」

Ink「やったあ！」

*数分後。

Error「着てきたぜー」

Ink「うわあ!?! Errorがまぶしすぎて直視できない！（Error「どういう意味だ!!」めっちゃ似合ってるよ!!）」

Error 「そ、そうか…？」

Ink 「わあてれてる！（そうだよ！似合ってる！）」

Error 「…逆だぞ？」

Ink 「あつやば」

Error 「はあ…行くぞ。」

Ink 「うん！」

—————

Dream 「あ、ようやく来た！」

K i l l e r 「おっそい！もうちよつと早く来て！」

I n k 「ごめんごめん」

B e r r y 「むえ！E r r o r も浴衣着たのか！似合ってるぞ！」

E r r o r 「正式には「着せられた」だけだな…あとありがと。」

M u d e r 「んぶつ…E r r o r が浴衣…w w w」

M e a r e 「w w w」

E r r o r 「わ、笑うな!!」

C r r o s 「…早くいきましようよ、あと十分ですよ。」

I n k 「わっ、やばい！」

D r e a m 「早く行こう！」

*光AUと闇AUは、ショートカットを使った。

・
・
・
・
・

20××年，

17時00分

祭り会場、SHRINETALEにて。

H o r r o r 「なあなあC r r o s …」

C r r o s 「なんですか？H o r r o r先輩。」

H o r r o r 「祭りっておいしいものあるのか？」

Cross 「もちろん！たくさんありますよ！」

Horror 「わあ…！早く行こう！」（キラキラスマイル）

全員—Horror & Berry（笑顔がまぶしいっ!!）

Berry 「Dream！あそこ！やりたいのだ！」

Dream 「んー？なにになにーって射的か！懐かしい〜」

Berry 「やってもいいか？」

Dream 「うん！僕と一緒に勝負しよう！」

Berry 「いいのだ！」

*ダダダダつ

Ink「あはは、元気いいねえ」

Killer & Muder「僕／俺はりんご飴でも…」

Killer「は？」

Muder「あ？」

店員さん「りんご飴！最後の一個！」

Killer & Muder「僕が！／俺が！」

Killer「あ”あ”っ!？」

Muder「はあっ!？」

*バチバチバチ…

C r r o s 「まつたく…」

H o r r o r 「C r r o s ! あそこに行きたい！」

C r r o s 「ええ!? まだ行くんですかあ!？」

*たたたたた…

M e a r e 「じゃ、俺は非リアたちのネガティブを摂取しに行くか…」

I n k 「じゃ、僕も行きたいところがあるから行くね！」

*すすすすた…

E r r o r 「・・・俺だけ残ったな。」

002

*20××年,

*19時45分

*祭り会場、SHRINETALEにて。

Error「…どこに行こうか。」

*Errorはしばらく歩いた。

Error「ふう…休憩するか。」

*ドゥゥゥン
!!!!!!

Error「うへ!? ってなんだ、花火か…びっくりした…」

Error 「…綺麗だなあ、音うるさいけど。」

*いちゃついているリア充がいる。

Error 「…爆ぜとけ。」↑↑

*花火終了

Error 「はあ、綺麗だった…DreamとかBerryとかが喜びそうだな。」

Ink 「あ、Error〜!」

Error 「へ? Ink? いたのか。」

I n k 「花火見たかったからねくえへへ。まだ時間はあるけど…どうする？」

E r r o r 「そこら辺を回ろうと思う。」

I n k 「OK!じゃ… 八時半くらいに出口で!」

E r r o r 「OK。」

.....

E r r o r 「…ん？」

*そこには、一軒の神社があった。

E r r o r 「たしか…神隠しにあう奴らが連発してるって噂の?うわあ…マジカヨ

…」

*しゃん、しゃん。

Error 「…なんだ？にしてもあたりがすごく静か…」

さつきまでにぎわっていたはずなのに…

〈もういいかあい？〉

Error 「誰だッ!？」

「まあだだよ。」

Error 「だれだよ…誰かいるのか??」

「君も遊ぼう。」

Error「は!?!…あ…」

へこつちへいらつしやい。く

*Errorは無意識に歩き出した。

Error（行くな、行くな、行つちやだめだ…）

*しかし、足は止まらない。

Error「…いま…行く…」

* シュウウウ :

.....

* 今更だが、Errorの設定のようだ。

Error!Sans

* Lv. 8

* HP. 64

* EXP. 9

* GOLD. 500

*ソウル・灰色

*意味・破壊

*服装

・紺色の浴衣姿。青色のスカーフも巻いている。

・首には小さいころにもらったInkお手製の金色の四角形のロケットをつけている。

*性格・しつかり者。

*一人称は俺。

*年齢は18歳か20歳

*過去はトラウマとなっている。

*Genoの頃の記憶を覚えていない。

memo

- ・接触恐怖症：は半分ほど克服している。
- ・闇AUは仲間。
- ・光AUは友達。
- ・その他AUはError自身にとって、好都合なおもちや。
- ・人形を作ったり、服を作ったりするので、裁縫は普通に好き。
- ・破壊には興味がなくなってきた。
- ・好きなAUはUndernovellaとlittletale。
- ・MuderとKillerのけんかを止める係としてCrosとは気が合う。
- ・他は原作どうり。

003

*20××年.

*9時03分

*光AUアジトにて。

Ink 「え?Errorが行方不明?」

Killer 「うん!お祭りのあとから三日も帰ってこなくて…」

Meare 「殺しとEXPにしか興味のないあのKillerが。」

Muder 「快樂殺人鬼のKillerが。」

Dream 「他人のことを心配するなんて。」

I n k 「珍しいねー」

K i l l e r 「おいお前ら後でこい」

I n k 「まあ、そんなことは置いて…僕一個、気になることがあるんだ。」

D r e a m 「なに？」

I n k 「あのお祭り会場の近くには神社があるじゃん？」

D r e a m 「うん。神隠しにあうって噂の…あ。」

I n k 「そう。D r e a m が察した通り、僕はE r r o r が神隠しにあつたのではと思ってる。」

C r r o s 「でも、神隠しなんて本当にあるんですか？ただ単にE r r o r 先輩が迷

子になってるだけかもしれないのに…」

M e a r e 「いや、普段からしつかりしてるあいつが迷子になることはない。」

C r r o s 「じゃあ、本当に…?」

I n k 「これはあくまで僕の『予想』だけどね。」

H o r r o r 「なあ、C r r o s …」

C r r o s 「どうしたんですか? H o r r o r 先輩…まさか思い当たることでも!?」

I n k 「え!? 教えて教えて!!!」

D r e a m 「もつたいぶらないで!!!」

H o r r o r 「いや、そうじゃなくて…」

C r r o s 「…え？」

H o r r o r 「朝飯まだか？C r r o s…」

*この後、その場にいた全員の光A Uと闇A Uの皆（ただし、E r r o rとH o r r o rを除く）がずっこけたのは言うまでもない。

…

* 2 0 × × 年

* 時??分

* ???????
にて。

E r r o r 「…つ…つ…つ、は…？」

*そこは、真っ白な空間で、E r r o rが倒れているのは黒色の花畑だった。

Error「すげえ真っ白…にしても、このつくり、何か見覚えが…まあ、ここで止まってても意味ないから進むか…。」

*Errorは歩き出した。

Error「…！思い出した！ここ、ルインズだ！でも…何か…欠けてる？」

色彩？

人？

いや、それよりもっと暖かいもの。

Error「雰囲気も消えてる…まるでGenoSideのあとみたいだな…」

すると、そこで。

*しゃん、しゃん。

Error「!また!」

「ごつちだよ。」

「ごつちにおいで。」

Error「…う…?今、のは…??とにかく、進もう、いや、進まなきゃダメだ。」

*Errorはひたすら歩いた。そして、彼はルインズを抜けた。